

第7日

平成30年6月18日（月）

午前10時零分開議

○議長（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は15名で、会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、15日に引き続き一般質問を行います。

それでは最初に、6番鹿毛哲也議員の質問を許可いたします。6番鹿毛哲也議員。

（6番鹿毛哲也君登壇）

○6番（鹿毛哲也君） 皆さん、おはようございます。本日最初の質問の許可を得ました6番鹿毛でございます。傍聴に来てくださった皆様、早朝より本当にありがとうございます。また、インターネットで傍聴をされている皆様、ありがとうございます。

それから、本日、大阪のほうで地震が発生をしております。被害がひどくないことを願っている次第でございます。それから、去年の7月5日発生九州北部豪雨災害においてお亡くなりになられた方々に、心より御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災に遭われた方々につきましては、お見舞いを申し上げたいと思う次第でございます。

さて、4月は市長選がございました。まずもって、林市長、御当選おめでとうでございます。今から災害復興等大変な仕事が出てくると思いますけれども、今後とも朝倉市発展のためにどうかよろしく願いをいたします。

本日は市長の政策について、朝倉市の基金について等を主な議題として一般質問を行います。

以下、質問席より質問を続行させていただきます。

（6番鹿毛哲也君降壇）

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず、市長の政策についてでございますが、どのようにして朝倉を取り戻すのか、具体策を問うということでございますけれども、15日の浅尾議員の質問とダブる面もあろうかとは思いますが、再度質問をさせていただきます。

まず、選挙時の市長の約束の中に朝倉を取り戻すというふうに書いてございますが、市長になられてどのように取り戻そうとしておられるのか、まずは復旧・復興、災害対策だろうと思われそうですが、そこあたりから細かく区切って質問をいたしますので、まずは市長の答弁を求めたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 今、鹿毛議員御質問ございました。お答えをさせていただきます。

まずは、何といたっても朝倉を復興させるということです。復旧・復興に当たりましては、

被災地・被災者に寄り添いながら、私みずから、その先頭に立って全力で取り組んでまいります。

また、今年度を「復興元年」と位置づけ、議員の皆様、市民の皆様、関係各位とともに力を合わせ、朝倉市一丸となった「オールあさくら」で復旧・復興に取り組んでいく所存でございます。

次に、復旧・復興を進めるに当たりまして、「健全あさくら」でございます。災害後、財政状況は非常に厳しくなっております。災害復旧事業は最優先に進めてまいります、その他の事業、大型事業も含めまして、厳しく事業の取捨選択あるいは凍結を含めた判断をしております。

次に、「ふるさと朝倉」です。全ての世代が心豊かに暮らせるまちづくりを目指してまいります。特に若い世代が、子どもを産み・育てやすい環境づくりのために、子育て世代包括支援センターを設置するほか、保育料や学校給食費の軽減を検討してまいります。

また、地域で元気に暮らし続けることができる環境づくりのため、コミュニティの育成促進や公共交通の利便性の向上に取り組むほか、高齢者が住みなれた地域で自立した生活を送ることができる環境づくりとして、生活習慣病対策や介護施策にも取り組んでまいるところでございます。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 細かく区切って質問するつもりでしたが、大体言われましたので、その中で保育料あたりと学校給食費の軽減というのが出てまいりましたが、まだわからないと思いますけれども、どれくらいの費用がかかって、財源はどこから持ってくるおつもりなのか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 私が選挙に当たりまして公約として掲げた中に、保育料あるいは給食費の減額といったものを掲げさせていただいておりましたので、そのことを申し上げさせていただいた次第でございます。

答弁の中にもございましたように、大変財政状況が厳しいということと、また先が見通しにくいという現状がございますので、こういった財政状況等を含め、市全体の保育料あるいは給食費の減額について、どのように市民の皆さん方が考えておられるのか、そういったことを含めて、今後、検討をさせていただきたいということでございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 財政が厳しいということでございますが、その中でもこのような軽減していくということは非常に大変だろうと思っておりますけれども、重要だと思っておりますので、ぜひ進めていっていただきたいなと思う次第でございます。

それから、「健全あさくら」の部分で大型事業の見直しをするというふうになっておりますけれども、どのような大型事業を見直しをするのか、具体的事業名をもし答えられる

範囲で結構でございますので、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 大型事業につきましては、これまで議員の皆様方にも活発に御議論をいただいております。

大型事業といたしましては、まず、庁舎が考えられると思います。それから、朝農跡地に計画しております十文字公園整備事業、それから秋月の小中一貫校等でございます。そのほかにも大型事業はまだまだございますが、特に大きいものとしましては、以上の3つを考えておるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 合併特例債の延長等々が国会で通りましたが、それに伴いまして、今言われた3つの計画はそれでも見直すということで考えてよろしいのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 議会の皆様方の力強い御支援もいただきながら、前森田市長、そして福岡県小川知事ほか多くの方々が一緒になって強い要請をしていただきました。このことによりまして、合併特例債の5年期限延長が決定を国のほうでしていただいた次第でございます。

こういったことによりまして、5年間のいわゆる猶予期間をいただいたということになりますので、この期間を利用しながら、財政状況を見ながら大型事業については検討していくということでございます。

その中にありまして、新しい市庁舎の建設については、現在のこの庁舎では老朽化等の課題が大きいということが一つございます。それと、市役所市庁舎については行政を行っていくという大きな役割とともに、市民の皆様方の各種サービスをしっかりと対応してやっていくという大きな役割がございます。

こういったことを考えましたときに、もちろん行政需要が今後どうなるのか、これに伴って財政状況がどのようになっていくのか、見通しがつくということを持つという条件にはありますけれども、できるだけ早くその判断をしていきたいと思っております。

残りの十文字公園整備事業、そしてまた、秋月の学校の問題、この2点については当分凍結をさせていただくということで考えております。その後、状況を見ながら判断をさせていただきたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 庁舎の問題につきましても、なるべく早く見通しがつけば、私はこういう地震とかが結構起っている今日本の地域の中で、やっぱり防災対策、特に市役所あたりが地震とかで崩壊するということはあってはならないと思っておりますので、そのあたりも決断のほうよろしくお願ひしたいと思う次第でございます。

それから、「ふるさと朝倉」のほうでは、コミュニティの育成促進というようなのを掲

げてございますが、具体的にどのように育成推進されるおつもりなのか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 地域のことはみずから考えてその解決に当たるということが大事だと思っておりますので、まずは、今あります17コミュニティについて、運営がより円滑スムーズかつ充実した取り組みになれるようにすることが大きな課題だと思っておりますので、17コミュニティのことについてきちんと考えてまいりたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 17コミュニティの運営の充実ということでございますが、では、どのようなところが充実していないとお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 災害を経まして、この取り組みにつきましては、例えば被災されていない地域については、被災地への支援をなされていまして。それから、被災を受けた地域につきましては、これまでにない多くの取り組みが出てきたということでございます。

各地域においては、多くのそれも複雑な需要が出てまいったということでございます。それを地域として、それから行政としていかに対応するかということが大きな課題でございますので、複雑多様化する地域のニーズに対しまして、できるだけその地域で解決する。地域で解決できないなら市として支援を行うといったことが課題だと思っておりますので、ニーズに対応できるようなコミュニティ運営が大事だと思っております。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 17コミュニティあって、私はそれぞれコミュニティでいろいろ問題は抱えていると思います。ですから、ぜひ、それぞれのコミュニティの今置かれている問題等々をそれぞれ個別に把握しながら、一番いい方法で解決をしていかなければならないと思っている次第でございます。

復興計画も策定をされまして、大体のあらかたの青写真ができたわけでございますが、今までは災害を受けていない地域も、やはり災害優先ということで考えてきておりました。

これからは復興計画のもと、粛々と計画を進めていかねばならないというふうに思っておりますけれども、その他の地域にも優先順位をつけて少しずつでも懸案事項に取り組んでいかないと、災害を受けていない地域もまた疲弊していくというふうに私は考えている次第でございますが、この点につきまして市長、いかがお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 今、総務部長から御答弁申し上げましたように、昨年の豪雨災害以降、被災が大きい地域におきましては、コミュニティ自体が存続が危ぶまれるという状

況にございます。

そういった地域につきましては、復旧・復興を進める中で、ぜひ、コミュニティを再生させるといふことで今取り組みをさせていただいております、そういう方針で進めさせていただきたいと思っております。

それから、被災がほとんどなかった地域についてでございますけれども、今の日本の社会にございまして、この朝倉市も同じだと思います。住民自治の考え方が出てきておりまして、これがある意味もう定着をしているということだと思います。

地域のことは地域の人たちが、それぞれ知恵を出し合って協力し合って自分たちの地域を守っていく、そして、暮らしやすい子どもからお年寄りまでが安心して暮らせるような、そういった地域づくりをその地域で、この場合はコミュニティということになりますけれども、こういったことでお取り組みをしていただくということが必要であると。

この前提におきまして、議員質問のことでございますけれども、それぞれのコミュニティの歴史、それから現在の特色とっていいかと思っておりますけれども、そういったものをしっかり守ってきていただいているという側面が私、市長になりまして日は浅うございますけれども、そういう印象を強く持っております。

その中でいろんな課題が出てきているということでございますので、こういったことにつきましては、しっかりとした形で具体的に行政といたしましては、コミュニティの皆さん方が共通の課題としてそれを集約をしていただく、こういったことを行政として対応しながら、力を合わせてコミュニティの皆さん方と行政がやっぱり共通認識を持って、いい地域をつくっていこうと、いい市をつくっていこうという協力関係、お互いのそういったものを構築しながら前に進めていくということと考えておる次第であります。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 住民自治を進めていくということは非常に重要だと思うんですけれども、やはり地域のインフラ整備や補修については、私は行政がしっかりやっていくべきだと思っておりますが、そのあたりの考え方について、市長、再度お願いいたします。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 地域のインフラを守っていくと、あるいは改善していくということにつきましては、議員のおっしゃるとおりであろうかと思っております。

ただ、一方で国の政策といたしまして、例えば農業の基盤等々については、制度としてその地域全体あるいは農業者を中心とした農業基盤のマネジメントについては、地域の皆さん方に工夫をしていただいて、地域でやっていこうというような事業も最近では定着をこれもしてきているということかと思っております。

そういうことを考えましたときに、行政で当然やるべきことはやってまいります。これについては、申し上げましたように、地域コミュニティの皆さん方と、それと行政の担当する部署がございまして、こういったところでしっかりと共通認識を持って対応させて

いただきたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） ぜひ地域の実情を踏まえて、やれることは少しずつでもいいと思うんですよ、とにかく前に進むことが大事だと思いますので、やっていただきたいというふうにお願い申し上げまして、次の質問に移ります。

将来的にどのような朝倉市にしたいのかということですが、私は将来の朝倉市は、他の都市と変わりが余り感じられない金太郎あめ的なビジョンではなく、どこか一つのことが秀でていて、そこを中心にほかにも伸ばすような将来の朝倉市が必要だと考えております。

市民がわかるように具体的なイメージをもっと詳しくお教えしていただけますでしょうか、市長、よろしくをお願いします。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 朝倉市の将来イメージということにつきまして、現在のところ朝倉市の総合計画、これがございますので、このことを中心にきょうは御答弁をさせていただきますと思います。

農業を初め商業、工業、観光などの産業が振興し、大都市圏との交流も盛んで、そこには雇用も充実している。その上で豊かな自然に加え、人と人とのつながりや歴史文化の資源にも恵まれた中で、全ての世代が心豊かに平和な暮らしができる、そういった都市にしていきたいと考えているところでございます。

具体的には、3月に策定をいたしました復興計画あるいは人口ビジョンや総合戦略、これらを十二分に精査・融合し、今年度策定中でございます私の任期に対応した4年間の総合計画で、より具体的に私が描きます朝倉市を示させていただきたいと考えておる次第でございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 私からお願いしたいのは、ぜひ総花的ではなくて、何か特色のあるような施策を入れていただきたいなということをお願いをいたしたいと思います。

これからの朝倉市は、もう待ったなしの状態だと考えております。林市長の今後の御活躍と御決断を御期待申し上げ、次の質問に移りたいと思います。

朝倉市の基金についてでございますが、現状についてお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 基金についてでございます。現状の考え方、今まで基金を積み立ててきました考え方について申し上げます。

これまで朝倉市は財政調整基金の適正規模ということで、仮に災害が起きたときの備えとして約30億円と言ってまいりました。災害が30億円、その他に10億円、計40億円程度と申してきたところでございます。

ちなみに、朝倉市の平成28年度末の財政基金の額は、平成28年度末でいきますと、福岡県下の政令市を除く26市では12位ということで、平均額とほぼ同額の43億円ということでございました。

そういう考え方でございます。以上が基金の考え方でございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） そしたら特別交付税も受け入れがっておりますけれども、特別交付税の算定はどのようになっているのか、また、ある程度入ってくる額は事前にわからないのかどうか、ちょっとその点をお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 特別交付税の受け入れ状況について御説明いたします。

平成29年度の特別交付税の交付結果でございます。12月分として約35.4億円、3月分として約35.1億円、計70.5億円でした。例年が約10億円ですので、単純に言えば約60億円が災害分として交付されたということになります。

これらを含みました平成29年度の決算見込みでございますが、財政調整基金から繰り入れない方向で調整できるのではないかと考えております。つまり、平成29年度末の財政調整基金の残高は43億円程度は保つことができるのではないかと考えているところでございます。以上が現状でございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 事前に幾ら入るといのはもうわからないんですかね。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 今後の特別交付税の見通しということになりますが、間違いなく平成29年度より厳しい交付状況になると考えます。

特別交付税につきましては、普通交付税と違いまして、一定の算式のみで算出されていないということでございますので、その上で、市とすれば現段階で例年10億円と言っておりますが、それとは別に40億円以上の要望をしていくというふうにしておりますけれども、全国の災害発生状況にも大きく影響されるということでございます。

これにつきましては、要望額に少しでも近づくように議員の皆様にも昨年度以上の力添えをいただければと考えております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） そうすると、今のところ43億円は残るだろうと、基金に残るだろうというふうなことでございますけれども、今後の基金の積み立ての考え方ですが、先ほども申されましたように、40億円ぐらい基金を積み立てておけばどうにかなるということでもございましたけれども、去年の九州北部豪雨災害のようなのが起こると、ひとたまりもないのではないかと私は思っておりますので、今後のどれぐらいの規模の積み立てがあればいいのかという見通しがわかれば、お教えいただきたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 先ほど市の財政調整基金の適正規模は、以前御説明したときは約40億円程度と申しておったということを踏まえまして、災害を受けた平成29年度予算の状況を見てみますと、災害分の財源不足額は約60億円くらいになると思われま。その同額が財政調整基金の適正規模だったかと、それが約60億円程度が財調を積み立てる規模なのかということにつきましては、今後、数年の状況を見て考えたいと思っております。

まず、被災後1年目であるということ、それから、今後の特別交付税の交付状況にもよりますので、現時点で適正規模がどのくらいかということとはとても判断することは難しいという状況でございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） ぜひ、そのあたりも含めて見通しを立てていって財政運営をしていかなければならないと思いますので、御検討のほどよろしく願いいたしたいと思えます。

それでは、人口増対策についてでございますが、岡山県新庄村の移住・定住の取り組みについてでございますが、この村の取り組みは非常に活発で、民間シンクタンクなどに委託して、移住定住説明会を大阪で行っていたりとかやっております。

また、ホームページを見ると、村のトップページにユーチューブで移住定住のビデオを流したり、非常に工夫を凝らしているホームページになっておるように思いました。

やはり相当な危機感があるんだろうなと考えた次第でございますが、私は、この新庄村にあって朝倉市にない制度とかの分析をされてありますでしょうか、もしされてあるなら、詳細をお尋ねしたいです。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 新庄村にあって朝倉市にないものとはという御質問だと思います。

その前に、先ほどの43億円残る予定だということにつきまして、ちょっとつけ加えをさせていただきます。

平成30年度予算の、先ほどは平成29年度の見込みを申しましたけれども、平成30年度予算では、もう既に財政調整基金より30億円の繰り入れを組み込んでいるということでございます。

それから、特別交付税を例年より9億円程度交付していただけるような予算を組ましていただいておりますので、基金の平成29年度末だけを考えるのではなく、平成30年度の当初予算にもそういう考えでもって臨んでいると、いずれにしても厳しいということをつけ加えさせていただきます。失礼いたしました。

新庄村にあって朝倉市にないものはでございますが、新庄村では、分譲宅地、それからUIターン者の定住支援住宅が整備されておることでございます。



新庄村ではお試し移住といったものもされておるようでございますが、このお試し移住につきましては朝倉市でもこれまで、「ふくおかトライアルワーキングステイ事業」等で体験宿泊事業等を実施したということでございます。

つまり、朝倉市で取り組んでいるものもありますけれども、先ほど申しました分譲宅地とか支援住宅については、朝倉市にはないといったことが言えると思っております。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 多分人口が減少をしてきているような日本の今において、多分パイの取り合いだろうなと思うわけでございます。ですから、やはり知恵を絞って、アイデアを持った市町村に人は集まるといことがありますので、ぜひ、いい取り組みについてやれることはやっていただきたいし、あとそれに対してしっかり評価をしていっていただきたいながら、まずかったらまた政策を変えるなりをやっていただきたいと思いますが、朝倉市の移住・定住の今までの取り組みにつきまして、どのような成果があるのか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 成果といいますか、今、朝倉市が取り組んでいる状況というものをお話ししまして、粘り強くさまざまな取り組みを組み合わせながらやっていく必要があると思っておりますので、現状の取り組みを報告させていただきます。

今年度、「来んね！住まんね！～ASAKURA～」と称する事業において、都市部で開催される移住定住イベントに積極的に参加いたします。

朝倉市が元気であることをPRし、被災地としてのイメージではなく、朝倉市のいいところを知っていただきたいというイメージアップをすることで、移住につなげていきたいと思っておりますのでございます。

それから、朝倉市体験ツアーにつきましても、実施いたします。朝倉市への興味関心を持っていただき、参加者がSNSや情報発信にするということで、朝倉市の認知度をアップさせて交流人口の増加を図るとい取り組みをしていきたいと。

それから、先ほど言いましたさまざまな取り組みを行うという一つといたしまして、朝倉インター付近に駐輪場を整備いたしまして、通勤通学の利便性を向上させると、つまり人口流出を抑制するために移住促進を図るといったことを行いたい。

さらに、平成27年度から行っております朝倉市住宅補助事業に、新たに住宅を新築する場合に、転入予定者であれば補助をするといった取り組みも行っていくということでございます。

さまざまな取り組みを進めていくことが移住されてくる方のニーズの一つでも合うことがあれば、移住・定住につながっていくというふうな考え方を持っておりますのでございます。さまざまなニーズはあるんですけれども、特に重要だといったところから取り組んでいきたいと思っておりますのでございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） いろいろやられてあるとは思いますが、さらなる政策を打って、とにかく人口が横ばいぐらいになれるような何か施策を打っていかねばならないのではないかなと私は危機感を非常に持っているところでございますので、ぜひさらなるいろんな施策の充実を、そしてまた、施策を打った後は必ず検証すべきだと思いますので、検証してまずかったらまた変えるということで、どんどん打っていくということが必要だと思いますので、そのあたりよろしく願いいたします。

では、次の質問に移ります。

「食べ物やエネルギーが100%自給できる里あさくら」ということで対策を打てないかということですが、今の朝倉市は、朝倉市イコール災害のあった地域ということで認識がされていると考えておりますけれども、朝倉市は昔から三連水車や山田堰とかいう自然を利用して成長してきている部分があるんだらうというふうに思っているわけでございますので、ぜひ、「食べ物やエネルギーが100%自給できる里あさくら」と、これは私が考えた仮称なんですけれども、そのようなイメージでばーんと打ち出して、施策を打っていただきたいなと思うわけですが、例えば山間部の農地つき空き家を家賃をただで貸し付けて、そして他地域から来る人を募集します。それと同時に、地域に小型の水力発電機を市が設置して何軒かの電力を賄えるようにしてやると、農地で食べ物を自給できて、電気も供給できるようになれば、都会からも移り住む者がふえるのではないかなと考えておるところでございます。

継続的な地域活性化のためには、さまざまな考えや価値観を認め、受け入れ、またそれを奨励し、それぞれの能力を最大限発揮できる環境の整備が今求められていると思います。必要なのは多様性であり、それを認め合える環境だと思います。

ですから、このような整備は市で行うことが私は必要だと思っておりますが、このあたりの考え方についていかがお考えか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 自然エネルギーの自給率100%そのものにつきましてはなかなか難しいものがあると考えますが、水を育む森林や豊かな水、肥沃な土壌から生まれる農産物に恵まれた朝倉市、その暮らしやすさを最大限にPRしていくということが大事だと思っております。

そういった取り組みを踏まえまして、朝倉に住みたくなるような魅力ある取り組みを検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 100%というようなのは無理かも知れませんが、それに近づけるようなものを持ってきてほしいと思いますし、私が調べたところによると、小型の水力発電は、400ワットから600ワットの発電量で約350万円だというふうに調べております。

それに蓄電池を設置すれば、大体1軒分の電気が賄えるというふうなことでございます。

小水力発電は非常に全国で注目を集めていて、昼夜を問わずに発電ができると、それから電力会社の買い取り価格が太陽光発電より高いというふうに調べておりますが、そのようなこともあって、自然エネルギーとしては非常によくて地産地消、エネルギーの地産地消という考え方でも私は今後進めていってほしいなど。特に山田堰とかそういう三連水車とかがある朝倉市ですから、きつとなじむんだろうなと考えておりますので、産官学を交えてぜひ実証実験すべきと考えますけど、市長、いかがでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） エネルギーの地産地消、それから自然エネルギーを活用した地域づくり、これまでも全国でさまざまな形でさまざまな場所で行われてきているという認識をいたしております。

朝倉市におきましても、いろいろと現在研究中ということでございますけれども、聞いてみますと、小水力によるエネルギー自給につきましては、以前、杷木白木地区で農業用水路を利用した小水力発電が実施され、校区のゲートボール場の照明や街灯、イベントで使う精米機など地産地消できるまでになり、取り組みを進める、こういう最中でございます。そして、このことによりまして、交流人口をふやして定住人口につなげていこうと、そういう試みがこれまで行われてきております。

小水力発電設備設置につきましては、地域全体でまとまってやるとか、その地形等々が本当に管理する上で、やっぱり草刈りをしたりとか、施設そのものの維持管理ということをどういう形でやるのかとか、そういう課題が浮かび上がってきているというふうにもございます。こういうことをクリアしてモデル地区になっていくのかどうか、そういったことを見ていきたいと思っております。

なお、白木地区は昨年の災害で甚大な被害を受けておりまして、現在は小水力発電、残念ながら今休止状態とお聞きをしております。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 山間部の多い朝倉市には、ぜひ、水力発電はいいんじゃないかなと私考えておりますので、ぜひモデル地区とかで実験をされて、どんどん広がっていくことをお願いを申し上げまして、次の質問に移りたいと思っております。

観光行政についてでございますが、観光予報プラットフォーム等の活用についてということでございますけれども、私、この観光予報プラットフォームというサイトを初めて知りまして、まあ、このようなデータが出ているんだなあと感じた次第でございますが、朝倉市はこのサイトを活用しているのかどうか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） 朝倉市におきましては、観光予報プラットフォームで扱われるデータにつきましては、原鶴温泉の施設で旅行会社を通じまして宿泊された方の情報

が集計されております。

平成28年度でございますけれども、朝倉市の全泊宿泊数は43万泊の約4割に当たる19万泊のデータが収録されております。特に注目されますのが、外国旅行者、いわゆるインバウンドの宿泊数でございますけれども、含まれております。

また、平成28年度の朝倉市への観光入り込み客数は317万人でございます。そのうち宿泊者数は前述のとおり43万人、全体の約13.5%ではございますけれども、このようなデータが宿泊に限定されておる分、インバウンド向けの観光戦略を立案していく上で活用していくことが有効と考えられます。

議員御指摘のとおりでございますけれども、観光予報等のビッグデータの活用の必要性は十分認識しておりますので、十分検討を重ねながら、あわせてイベント等や物産販売につきまして昨年の豪雨災害以降、支援目的で62件の機会をいただいております。また、朝倉市の全国地名度は高くなりましたけれども、これらを逆に好機と捉えまして、定住のきっかけづくりとして市の観光行政を行ってまいると、このように考えております。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） やはりこのような何かデータというなのはいろんな使い方が今あると思うので、特に観光行政については、データを駆使してどういう施策を打ったら観光者が来るかとか、インバウンドについても、データをもとにどのようにして分析していくかとか、非常に私分析が大事だと思っておりますので、このようなサイトを有効活用しながら、ぜひやっていただきたいと思っておりますし、ホームページの中に自治体や観光協会はこのサイトに無料でいろんなのを掲載可能と書いてございますが、朝倉市はそういうサイトで宣伝するとか、そのようなことをやっておられますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） 原鶴温泉が加入しております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） ぜひもっともっと活用できると思うんですね、このようなデータは。原鶴だけにこだわらず、活用できるものは活用していただきたいし、私が一番言いたいのは、交流人口をふやすということは、定住人口につながるわけですね。そのための初歩の入り口だと思っておりますので、ぜひ交流人口をふやすことに力を入れていただきたいとお願い申し上げまして、次の質問に移りたいというふうに思います。

教育行政についてでございますが、通級指導教室の状況についてでございますが、今の現状についてお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 朝倉市の通級指導教室は、小学生対象の教室が2カ所、これは甘木小学校内のあまぎ通級指導教室と、朝倉生涯学習センターの中にあります、あさくら通級指導教室があります。中学生の対象につきましては、甘木中学校に1カ所ありまし

て、計3カ所でございます。

現在、あまぎ通級には11名、あさくら通級には9名の小学生が入級しております。一方、甘木中の通級指導教室については、4名の中学生が入級をしております。

通級指導教室につきましては、読み、書き、計算など特定の学習が苦手であったり、日常の行動とか、感情のコントロールが苦手であったりする児童生徒に、その状態の改善や安定を目指して指導をしております。

具体的には、文字の習得が難しい児童生徒に対しましては、状態に応じて段階的な支援を行ったり、友達とのコミュニケーションをとることが苦手な児童生徒に対しましては、対話のトレーニングをしたりしています。

また、月1回教室に通う児童生徒を集め、グループ学習を行っております。そこでは、みんなでゲームやものづくりをして、お互いが気持ちよく生活できるためのルールの習得やコミュニケーション能力の向上を図っているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 小学校2カ所で中学校が1カ所ということでございますけれども、この受講希望者はふえているのでしょうか。ふえているなら受講できない場合も含めて、対策はどのように考えておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） このように特定の分野が苦手であったり、コミュニケーション能力が足りないというか、上手にできない子については、全国の傾向でございますけれども、やはりふえております。これは私どもの朝倉市でも同じような状況でございますので、議員御指摘もありましたので、今後、まずは小学生を対象とした通級指導教室について1カ所増設をすることについて、前向きに検討をしてみたいと考えております。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） ぜひ、ふえているということでございますから、手だてをしてほしいということをお願いしますが、そうするに当たって指導者は足りているのかどうか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 先ほど申し上げましたような事業を行いますので、指導者には極めて専門性の高い能力が必要になります。この指導者の育成につきましては、各研修会に派遣をして長期展望のもとに確保するような形で努めてまいっておるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） 私が調べるところによると、指導者のほうはなかなかそろいにくいと聞いておりますが、そのあたりは大丈夫ですか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 先ほど申し上げましたような長期展望を持って指導者の育成はもう既にしておりますので、1教室増設をするとした場合についても、大丈夫でございます。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） あと巡回指導等は要望があると思うんですが、それに対してやっておられるかどうか。やっているとしたらどのようにやっておられるか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 巡回相談、巡回教室につきましては、これ県が制度でございまして、それにつきましては、まず、各学校に希望をする回数なり、そういうものを事前に調査をしまして、県の北筑後教育事務所の指導主事とか、特別支援学校の先生方が来られて各学校を回っておりますので、必要なニーズについては足りているというふうに考えています。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員。

○6番（鹿毛哲也君） ぜひこの通級指導教室につきましては、やはり世の中自体がノーマライゼーションの世の中になってきておりますので、非常に私はきめ細やかなサービスが必要だと感じている次第でございます。ぜひふやしていただくことを切にお願いを申し上げまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中島秀樹君） 6番鹿毛哲也議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前10時56分休憩

---